

東京工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	化学Ⅵ	
科目基礎情報							
科目番号	0084		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	電気工学科		対象学年		3		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	(数研出版) 改訂版化学・リードα化学基礎+化学・(東京書籍) 図説化学						
担当教員	仙波 壽朗						
到達目標							
物質は低分子量の化合物と分子量が非常に大きい高分子化合物に分類される。まず、高分子化合物がどのような化合物であるかを説明できるようになること。次いで、高分子化合物をさらにいくつかのグループに分類できるようになり、それぞれの性質や反応性を説明できるようになること。高校の教科書に記載された高分子化合物の基本的な知識の定着が目標となる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
高分子化合物	高分子化合物を分類し特徴を説明することができる。		高分子化合物を分類し、特徴を挙げることができる。		高分子化合物の分類ができる。		高分子化合物の分類ができない。
天然高分子化合物（糖類）	単糖類、二糖類など糖類の分類ができ、構造およびそれらの性質を説明できる。		単糖類、二糖類などの糖類の分類ができ、構造の違いがわかる。		単糖類、二糖類などの糖類の分類ができる。		単糖類、二糖類などの糖類の分類ができない。
天然高分子化合物（アミノ酸、タンパク質）	アミノ酸とタンパク質の性質や反応を理解し、たんぱく質の構造について説明することができる。		アミノ酸、ペプチド結合、タンパク質について説明できる。		アミノ酸とはどのような物質であるかを説明できる。		アミノ酸とはどのような物質であるかを説明できない。
天然高分子化合物（核酸）	核酸の構造を理解しDNAの構造とはたらきについて説明できる。		核酸の構造を理解していて、DNAについて説明ができる。		核酸の構造を説明できる。		核酸の構造を説明できない。
合成高分子化合物	合成高分子の分類ができ、代表的な物質を挙げることができる。また、合成方法も説明することができる。		合成高分子の分類ができ、それぞれの代表的な物質を挙げることができる。		合成高分子の分類ができる。		合成高分子の分類ができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	3年生前期までに学習した化学Ⅰ～化学Ⅴ、ものづくり基礎工学とともに、化学および工学の基礎科目として位置づけられる。高分子化合物の分類と特徴について学習しながら、天然高分子化合物や合成高分子化合物などさまざまな高分子化合物の構造と性質について学ぶ。						
授業の進め方・方法	高校の検定教科書を使用して、単元ごとに理解すべき要点を説明していく。具体的には、第5編「高分子化合物」を学習する。毎回教科書5～10ページ程度の目安で進めていく。問題集も購入済みであるので、予習・復習に役立てること。各学科の授業で扱う基礎的な内容は同じであり、下記の授業計画に示している。さらに発展的な内容を学科の専門性に応じて付け加えることもある。						
注意点	化学Ⅰ～化学Ⅴの内容を適宜復習すること。講義用ノートを準備し、授業に集中すること。副教材の問題集等を利用して予習・復習を欠かさず、自学自習の習慣を確立させること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用			☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、有機化合物の復習		有機化合物の構造や分類について説明できる。		
		2週	1章 高分子化合物の性質	高分子化合物の構造と性質	高分子化合物をいくつかのグループに分類し、高分子化合物の特徴を挙げることができる。重合反応の種類や平均分子量について説明ができる。		
		3週	2章 天然高分子化合物	単糖・二糖	糖類を分類でき、単糖類および二糖類の代表的な物質を挙げ、その性質を説明できる。		
		4週	2章 天然高分子化合物	多糖	多糖類の代表的な物質を挙げ、性質を説明できる。		
		5週	2章 天然高分子化合物	アミノ酸、タンパク質	アミノ酸の構造や特徴的な性質を説明できる。ペプチド結合を理解する。		
		6週	2章 天然高分子化合物	タンパク質	タンパク質の構造と反応を説明できる。		
		7週	前半のまとめ		中間試験までの学習内容の要点を整理する。		
		8週	中間試験		前半の学習内容を確認する。		
	4thQ	9週	中間試験の返却と解説		中間試験を返却し、解説する。前半の学習内容の理解度を確認する。		
		10週	2章 天然高分子化合物	酵素と核酸	酵素のはたらき、特徴を説明できる。また、核酸の構造とはたらきについて説明できる。		
		11週	3章 合成高分子化合物	合成繊維	代表的な合成繊維の名称と合成方法を説明できる。		
		12週	3章 合成高分子化合物	合成樹脂	熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂の具体的な化合物を挙げ、両者の差異について構造と性質の観点から説明できる。		
		13週	2章 合成高分子化合物	イオン交換樹脂、ゴム	イオン交換樹脂の仕組みについて説明ができる。また、天然ゴムと合成ゴム、それぞれの構造を理解し、性質を説明することができる。		
		14週	3章 高分子化合物と人間生活		機能性高分子化合物の種類とそれらの機能を説明できる。高分子のリサイクル例を挙げることができる。		
		15週	後半のまとめ		中間試験後の学習内容の要点を整理する。		

		16週	学年末試験返却		中間試験後の学習内容の定着度を確認する。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	後14
				物質の三態とその状態変化を説明できる。	3	後2
				共有結合について説明できる。	3	後1,後2
				構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後10,後11,後12,後13
				化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	3	後3,後4,後5,後11,後12,後13
評価割合						
		試験	課題		合計	
総合評価割合		80	20		100	
基礎的能力		80	20		100	